

KISOEデータベースに基づく、放射線作業従事者の 職業被ばく分析（2005～2014年）

韓国職業被ばく情報システム（KISOE）は、韓国原子力安全技術院（KINS）で運用されている。このシステムは、放射線作業従事者の放射線防護プログラムを改善することを目的とした、韓国の放射線作業従事者の職業被ばくを分析するためのものである。また、原子力発電やその他産業、研究、教育、医療などの多くの分野における放射線作業従事者の職業被ばくの線量記録に関するデータベースを有している。

様々な種類の職業被ばくのトレンドが、KISOEのデータベースを用いて分析されてきた。最近の10年間（2005～2014年）の10種類の許認可に関連して、年間集団線量や年間平均線量、許認可取得事業者や放射線作業従事者の数に対するトレンドの分析が実施された。

2005～2012年の間に放射線作業従事者の数は毎年5%増えたが、2013・2014年は増加しなかった。放射線作業従事者の数が停滞気味である最近の傾向について、それが一時的なものであるかそうでないのかを判断するためには、より詳細なデータが必要である。2005～2014年にかけて、年間集団線量は同じレベルを保ち続け、年間平均線量は、原子力発電所を含むいくつかの分野で継続して減少してきたが、非破壊検査（NDT）の分野では違った。NDTの場合、2011～2013年に年間集団線量と年間平均線量が増加した。しかし2014年には、2013年と比較していずれも減少した。NDTの分野におけるこれらの増加と減少は、徹底的な放射線安全管理が実施されたことによると思われる。様々な分析に基づき、韓国においては放射線作業従事者のための放射線防護プログラムが継続して改善されてきたことが結論付けられた。

キーワード：KISOE、職業被ばく、放射線防護、放射線作業従事者、韓国